



玉島っ子だより

第 16 号 令和 7 年 3 月 14 日

文責：校長 松尾 信 広

【学校教育目標】 **たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう子どもの育成**

☞ 顔を上げ、胸を張って、未来へと歩んでください！

6年生へ、小学生最後の「玉島っ子だより」を、心を込めて送ります。これを書いているのは、修了式を終えたばかりの、3月13日の4時間目です。皆さんを目の前にして、「明日で卒業か。」と思ったら急に寂しくなったのですが、そこはぐっと我慢して話をさせてもらいました。その内容を、ここに書き留めておきます。

発明王エジソンは、長く光り続ける「電球」を発明するために1万回の実験を行い、見事成功させました。新聞記者から、「1万回も失敗をして、あきらめることはしなかったのですか？」と聞かれたとき、「私は失敗などしていない。この方法では光らないという発見を1万回したのです。」と答えたそうです。エジソンのこの学びの姿勢も素晴らしいですが、エジソンの前向きな考え方は本当にすごいと思います。自分を否定するのではなく、今の自分を前向きにとらえるポジティブシンキングを見習いたいですね。私は、長所にならない短所はないと思っています。自分の中では「短所かな？」と思っていることでも、前向きに考えてみたらどうでしょう。あきらめが悪いのは、粘り強いから。頑固なのは、意志が強いから。意見が言えないのは、人の気持ちを一番に考えるから。負けず嫌いなのは、向上心があるから。悩み事が多いのは、何事にもまっすぐ向き合うから。周りを気にするのは、心配りができるからです。皆さんは一人ひとり、素晴らしいところがたくさんあります。それは、私や先生方、家族の皆さんがよく知っています。ありのままの自分を、どうぞ大好きになってください。そして、ますますその笑顔を輝かせていってください。



卒業生の皆さん、いよいよ今日は卒業の日です。この6年間の学びを、これからの人生の土台としながら、さらに雄々しく逞しく生き抜いてほしいと心から願っています。その思いを込めて、下に卒業証書授与式のときの私からの言葉を綴ります。ご卒業、本当におめでとうございます！

第145回 卒業証書授与式 式辞

学校の木々を軽やかに飛び回る小鳥たちの姿に、暖かな春の訪れを感じる今日の良き日、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様にご臨席を賜り、第百四十五回卒業証書授与式を挙行できますこと、心より御礼申し上げます。

本校を巣立つ10名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほどの一人ひとりの決意表明と、卒業証書を受け取る時の姿に、凛々しさと頼もしさを感じ、胸が熱くなりました。今、皆さんが手にしている卒業証書は、この6年間の学びと成長の証です。また、最後に書いてある番号は、あなただけの番号であり、明治時代から続いている玉島小学校の伝統を受け継ぎ、それを次の玉島っ子へと引き継いだ証でもあります。胸を張って持ち帰り、お世話になった方々へ感謝の気持ちを込めて、卒業の報告をしてください。

最近、玉島小学校がさらに明るくなりました。それは、卒業生の皆さんが、中庭のタイルをチェック柄に塗ってくれたおかげです。きっと私はこれからも、廊下から中庭を見るたびに、皆さんの笑顔を思い出すことでしょう。この「立つ鳥プロジェクト」を含めて、皆さんはこの1年間、玉島小学校を明るく楽しくするために、力を尽くしてくれました。入学式や1年生歓迎遠足での立派な

お兄さんお姉さんぶりや、運動会の練習から当日までの素晴らしいリーダーシップ、委員会活動やあゆっ子タイムなどで見せる強い責任感に、いつも最上級生としての頼もしさを感じていました。また、普段の生活でも、皆さんはとても生き生きとしていて、学校全体を明るくしてくれました。この1年間、玉島小学校を支えてくれて、ありがとうございました。それから、これは思い出話になりますが、修学旅行、楽しかったですね。PTA文集「こぶし」にも書きましたが、この2日間の中で見た、見学先で真剣に学ぶ姿や平和を心から祈る姿、何事も笑顔で楽しもうとする姿や仲間を優しく思いやる姿に、皆さんの良さをたくさん感じる事ができました。こんなに素晴らしい卒業生と思い出を共有できること、心から嬉しく思っています。

そんな皆さんに、最後に伝えたいこと。それは、これから自分があるその場所で、「ハッピーサイクル」を回してください、ということです。皆さん知っての通り、「思いやり」の気持ちが「支え合う」という行動につながり、そこに「感謝」の気持ちが芽生えるという好循環が「ハッピーサイクル」です。この言葉を初めて口にしたのは、令和3年の2学期の始業式で、皆さんはまだ3年生



でした。当時はコロナ禍の真ただ中で、新型コロナウイルスに感染したり、ワクチンを接種したりすることで、偏見や差別、いじめが生まれないか心配をしていました。そして、今まで以上に温かい心のつながりが大切だと思い、この「ハッピーサイクル」は生まれました。では、コロナ禍が終わった今、もうこの言葉は必要ないでしょうか。私はそうは思えません。それどころか、これからいよいよ大切になってくると思うのです。それは、皆さんがこれから生きる未来は、支え

合うことが必要な時代になると思うからです。自分の良さや強みを、誰かのために、何かのために活かしていく時代になると思うからです。ワンピースのルフィーだって、「おれは、助けてもらわねえと生きていけねえ自信がある！」と叫んでいます。誰かを助け、誰かに助けてもらいながら、「思いやり」と「感謝」の気持ちをもって、今いる場所で「ハッピーサイクル」を回してください。回し方はそんなに難しくありません。してもらったことに、「ありがとう。」と笑顔で返してみてください。それだけで、「ハッピーサイクル」の火種はあなたと相手の心に灯るはずです。「ありがとう。」は世界最強のあいさつですから。あとは、自分が人のためにできることを見つけて、自分が輝ける夢や目標を定めて、笑顔で未来へと進んでいってください。応援しています。

ご来賓の皆様、本日は卒業生の晴れの門出をお祝いしていただき、誠にありがとうございました。今後とも、子ども達の健やかな成長のために、見守りとお力添えをお願い申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この6年間で立派に成長された姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと存じます。この6年間、本校にお寄せいただいた温かいご支援、ご協力に対しまして、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

さあ、卒業生の皆さん、顔を上げ、胸を張って、卒業の「卒」の字のごとく、この玉島小学校から夢や目標に向かって歩み始めてください。私たちはその後ろ姿を、いつまでも見守っています。

令和7年3月14日

唐津市立玉島小学校 校長 松尾 信広